

第 3 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文
コ ン テ ス ト

優 秀 賞

静 岡 県 西 遠 女 子 学 園 高 等 学 校 3 年

大 杉 明 日 香 さ ん

第3回優秀賞作品
大杉 明日香さん(タイ部門)

「マイペンライ」日本語に訳すと「いいんですよ」という意味。この言葉が日常的に使われ、優しくのんびりした国民性から、タイが「微笑みの国」と言われる理由が分かる。

歴史を遡れば、タイは農耕民族がつくった唯一の王国で、13世紀にスリランカから伝わった仏教を熱心に信仰している。国旗を彩る白が仏教で、赤が国民、青が国王ということからも、国民の約9割が仏教徒であり、その信仰心は先祖から純粹に受け継がれてきたことが想像できる。種をまき、育て、収穫した恵みをいただくという農業を軸に、不作や干ばつなどの困難な状況にも、「マイペンライ」で心豊かに発展を遂げてきたのだろう。

記事の内容から、タイでは老若男女それぞれの進む道の根底と過程に、仏教が必然的にあり、仏教徒であることへの誇りと、生涯をかけて仏の教えを求め抜こうとする求道の心が伝わってくる。「収入の多少に関わらず、事あるごとにお寺に行ってお布施する」という慣

第3回優秀賞作品
大杉 明日香さん(タイ部門)

習は、食べることや寝ることと同様に祈ることが生活の一部であることを示している。私利私欲より、仕事の充実感や周囲の人々の幸福を優先する思いからのお布施は、金額の多少が重要なのではなく、未来への願い、希望が詰まった行動そのものに価値があるのだと感じる。それぞれの祈りをお布施に託し、吊り下げられた無数のお札は、タイの人々の信仰がそのまま生活であることを意味する。

タイでは、祝祭日や年中行事も仏教にちなんだものが多い。仏という同じ対象に祈りを捧げる国であり、仏教という思想を糧として生きる国民性だからこそ、それが行事に反映されるのだろう。ある歴史家の言葉に「年少時に教え込まれた事柄は、他の何よりも根強く残る」とある。子供たちは、遊びたいから遊び、食べたいから食べ、祈りたいから祈る。行動そのものが自発的で、自発的であるからこそ継続される。写真のように、美しく輝く寺院を家族で見て「きれいだね」と手を合わせ、勉強や

第3回優秀賞作品
大杉 明日香さん(タイ部門)

スポーツなどの目標を祈り、力に変えていく。
大人から子供への仏教を通した豊かな関わり
が、生きる基軸になっていく。

母の友人家族が5年間タイに住み、2年前に
帰国した。帰国後、タイ人の温かさ、治安の良
さなど、住みやすい環境での生活に充実の
日々であったと聞いた。例えば、混雑している
バスで、子供に笑顔で席を譲ってくれたり、タ
クシーの運転手が激しいスコールで道路に水
が溢れる中を、通れる道を探して目的地に快
く送り届けてくれたりと、コミュニケーション
ンで嫌な思いをしたことは一度もなかったそ
うだ。タイの人々は、仏教の教えを根本に、他
者への思いやりにあふれ、苦しいことや多少
の失敗にも「マイペンライ」で、あっさりと爽
やかに、清らかな微笑みの光に満ちているの
だろう。記事の写真の向こうに思いを馳せ、豪
華な仏教美術に触れながら人々の微笑みに会
うために、タイへ行きたいという私の希望が
大きく膨らんだ。

第3回優秀賞作品
大杉 明日香さん(タイ部門)

参 考 資 料 :

書 籍

- ① メアリー・M・ロジャース
- ② タイ 目で見る世界の国々
- ③ 国土社

書 籍

- ① イブン・ハルドゥーン
- ② 歴史序説 (四)
- ③ 岩波新書